

令和5年10月1日

各 位

公益財団法人 富山県ひとつづくり財団

理事長 蔵 堀 祐 一

## 第41回「とやま賞」の推薦について（依頼）

爽秋の候 各位にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃から当財団の事業の推進に格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、「とやま賞」候補者推薦要領に基づき、第41回「とやま賞」候補者（個人又は団体）を募集いたします。

「とやま賞」は、富山県の置県百年を記念して、明日の富山、ならびに日本の将来を担う人づくりをめざして設けられたものであり、前途有為な方々を表彰し、その活動を奨励するものであります。

つきましては、ご多用中のこととは存じますが事業の趣旨をご理解いただき、第41回「とやま賞」候補者をご推薦くださいますようお願い申し上げます。

なお、過去の「とやま賞」受賞者は、当財団ホームページ（<https://www.t-hito.or.jp/zaidan/toyamashou/data/winners.pdf>）をご覧ください。

（連絡先）

（公財）富山県ひとつづくり財団 担当：大橋

〒930-0018 富山県富山市千歳町1-5-1

TEL：076-444-2000

E-mail：toyama-award@t-hito.or.jp



# 第41回「とやま賞」候補者推薦要領

## 1. 「とやま賞」の趣旨

富山県の置県百年を記念して、明日の富山、ならびに日本の将来を担う人づくりをめざして設けられたものであり、前途有為な方々を表彰し、その活動を奨励するもの。

## 2. 主催

富山県、公益財団法人富山県ひとつくり財団

## 3. 対象分野及び候補者の条件

学術研究、科学技術、文化・芸術、スポーツ等の分野において、すぐれた業績を挙げ、かつ、将来の活躍が期待される個人または団体で、以下の条件を満たすもの。ただし、既に「とやま賞」を受賞した個人または団体は、同一活動においては対象としない。

- (1) 富山県出身または富山県内在住の者
- (2) 45歳以下であること（令和6年4月1日現在）  
ただし学術研究部門人文社会分野についてのみこの限りではありません。
- (3) 大学・研究機関等に所属する者にあつては、准教授相当クラスまでの者であること。

## 4. 提出書類等

下記(1)～(3)の書類の電子データをEメール添付の上で送付すること。ただし、電子化が難しい図録や著書等の書籍がある場合は現物の送付を認める。その際は、2冊提出すること。

- (1) 第41回「とやま賞」候補者推薦書
- (2) 推薦の根拠となる「応募業績の要旨」……(様式1(全部門共通))
- (3) 財団が指定する提出資料（以下枠内参照）

- 上記(1)～(3)のMicrosoft Word形式の書類様式を財団ホームページからダウンロードし入力の上、電子データとしてEメール添付の上で送付してください。
- Eメール添付にかえて、すべてを書き込んだCD-R等での提出も認めます。
- ファイルサーバー、ファイル転送サービスの利用も認めます。
- 財団で電子データ等の受領後、受領した旨を「推薦者」宛にEメールにてご連絡します。

## 財団が指定する提出資料

### 1. 学術研究部門（新たな知見や解釈等、理論・方法論的な研究に対する部門）

- (1) 2018年以降の研究論文等のリスト ……………(様式2(学術研究部門))
- (2) 主な講演等および受賞歴 ……………(様式3(学術研究部門))
- (3) 科学研究費助成及び公的財団・民間等による助成のリスト  
……………(様式7(学術研究部門、科学技術部門、文化・芸術部門共通))
- (4) (1)記載の代表論文等5編全文の写し。論文等が書籍である場合も写しを作成し提出すること(共著の場合は担当部分のみで可)。インプレスの場合はそれがわかるもの(受理通知など)を併せて提出すること。書籍の場合は可能であれば加えて書評等を提出すること(学術論文・ジャーナルの場合は不要)。
- (5) (4)により提出する代表論文等が英語以外の外国語で書かれている場合は、以下の資料を提出すること。
  - 英語以外の外国語で書かれた論文については、2,000字程度の日本語の概要。
  - 英語以外の外国語で書かれた著書については、日本語の目次と4,000字程度の日本語の概要。

### 2. 科学技術部門（理論を基に、知識の実用化に寄与したものに対する部門）

新素材・物質等の発明、分析手法や計測技術の開発、新しい機器・装置の開発・改良、社会的インパクトのある情報システム開発等

- (1) 研究・技術論文、公表文献等のリスト ……………(様式4(科学技術部門))

- (2) 特許・実用新案、実用化(事業化)の状況(共同研究、役割分担、進捗状況、業績等)、受賞歴  
.....(様式5(科学技術部門))  
上記以外は、学術研究部門の(3)~(5)に準じる。

### 3. 文化・芸術部門

- (1) 活動歴等および受賞歴 .....(様式6(文化・芸術部門、スポーツ部門共通))  
(2) 科学研究費助成及び公的財団・民間等による助成のリスト  
.....(様式7(学術研究部門、科学技術部門、文化・芸術部門共通))  
(3) 業績内容がわかる作品や音源(CD)等または図録、著書、CD等の著作物。ただし、共著等の場合は当該部分の写しを提出すること。なお、動画や音源を提出する際は、未販売のものはDVD-RやCD-R等の記憶媒体に収録すること。販売されている場合は、販売されているものを送付するか、上記の記憶媒体にコピーの上、送付すること。

### 4. スポーツ部門

- (1) 活動歴等および受賞歴 .....(様式6(文化・芸術部門、スポーツ部門共通))  
(2) (1)に関する活動内容・業績、記録等を掲載した資料の写し(A4版)

### 5. 各部門共通事項

- (1) 参考書類として、業績及び成果を掲載した雑誌、著書、新聞等資料の写しがあれば、添付しても差し支えない(A4版)。ただし、共著等の場合は担当部分の写しを提出すること。また、書評等があればあわせて提出すること。  
(2) 団体で応募の場合、構成メンバーと役割分担のわかる資料を提出すること。  
・様式は定めないが、A4版・1ページに収めること。  
(3) 提出を受けた記憶媒体や書籍等は原則として返却しない。  
・絶版・初版等特別な事情があるときは、応募にあたり前もって相談すること。

## 5. 推薦締切

令和5年11月15日(水) 正午必着

## 6. 送付先

(公財)富山県ひとつづくり財団 事務局あて  
〒930-0018 富山県富山市千歳町1-5-1  
富山県教育記念館2F

電話 076-444-2000  
FAX 076-444-2001  
E-mail toyama-award@t-hito.or.jp  
ホームページ <https://www.t-hito.or.jp/zaidan/index.html>

## 7. 選考、発表

- (1) 本財団においてとやま賞選考委員会を設置し、候補者の将来性、独自性、国際性等の観点から慎重に審議し、受賞者を決定する。  
(2) 受賞者の発表は令和6年4月下旬の予定。

## 8. 表彰

- (1) 受賞者には奨励金100万円を贈呈する。  
(2) 贈呈式は令和6年5月下旬の予定。  
(3) 受賞者には贈呈式に出席の上、記念スピーチをお願いいたします。

## 9. その他

- (1) 候補者・推薦者の個人情報については厳重に管理し「とやま賞」以外の目的には使用いたしません。  
(2) 受賞者の履歴、研究内容などについては財団広報や報道機関等に公表されることをご了承の上ご応募ください。



推 薦 理 由	(1) 業績内容について		
	(2) 業績に対する斯界の評価について		
	(3) 将来性について		
ふりがな			職名
推薦者氏名			
推薦者所属			
連絡先 (自宅) (勤務先) (いずれか選択)	住所	(〒 )	
	電話		
	E-mail :	(推薦書類等の到着の連絡及び候補者に了知がない場合に使用するため、必ずご記入ください。)	
推薦されたことについて候補者本人の了知の有無 (いずれか選択)			有 ・ 無

**応募業績の要旨**

応募 部門	部門 (分野)	候補者 氏名	
----------	---------	-----------	--

※分野は学術研究部門のみ記入

**〈題 目〉**

--

記入にあたって

- 業績の特長を 2 ページ以内 でわかりやすく記述すること。
- グループでの業績については、グループリーダーと、業績における本人の役割を明示すること。
- 開発技術が国内外で取り入れられた実例や取り入れられる予定があれば記入すること。

**〈要 旨〉**





## 2018年以降の研究論文等のリスト

- 論文には番号を付し、論文の著者名は原論文のとおり記入してください。また、候補者名に下線を引いてください。
- 学術研究部門の医薬・生命科学分野と理工分野の論文においてはインパクトファクターとField Weighted Citation Impact (FWCI) を、わかるもののみ以下の例のように論文末尾に記してください。  
例) インパクトファクターが1.485、FWCIが1.475の場合 (IF = 1.485, FWCI = 1.475)
- 責任著者 (コレスポンディング・オーサー) の氏名の右上に\*印 (アスタリスク) を付してください。
- 代表論文等5編の論文番号に○印を記してください。
- 特許を記載する際は、名称、登録番号あるいは出願・公開・公告番号、公開 (出願) 年月日、発明者全員 (それぞれの貢献度%を記入) を記してください。

## 主な講演等および受賞歴

### 全国規模の会議及び国際会議における特別講演・基調講演・招待講演など 主な講演のリスト等

- 講演は主催団体等からの依頼により行った講演のみとします。学会における研究発表・事例研究に相当する講演は除きます。
- ①会議名、②主催者名、③演題、④期日、⑤会場を記入してください。
- 学会活動歴として、学会の会長や理事、または全国規模の会議及び国際会議等の実行委員長や代表幹事で多大な貢献のあった場合は、その旨記入してください。

### 受賞歴

- 新しいものから順に書いてください。
- ①受賞年、②賞の名称、③授与団体、④受賞題目を記入してください。

## 研究・技術論文・公表文献等のリスト

- 研究・技術論文は、5年以内(2018年以降)に発表したものに限り、番号を付し、代表論文5編の論文番号に○印を記してください。論文の著者名は原論文のとおり記入し、候補者名に下線を引き、責任著者名の右上に\*印(アスタリスク)を付してください。インパクトファクターとField Weighted Citation Impact (FWCI)がわかるものは、以下の例のように論文末尾に記してください。

例) インパクトファクターが1.485、FWCIが1.475の場合 (IF = 1.485, FWCI = 1.475)

- 公表文献等は、応募業績に係るもので、公表年次は問いません。文献等に番号を付し、共同研究の場合は候補者名に下線を引き、分担内容を記入してください。

## 特許・実用新案、実用化(事業化)の状況、受賞歴

### 特許・実用新案、実用化(事業化)の状況等

- 実用化(事業化)の状況については、共同研究プロジェクトの名称、構成、候補者の責任分野、これまでの経緯や進捗状況、業績や社会に与えた(与える)インパクト等を記入し、図面、写真、業界紙等を参考添付してください。
- 全国規模の会議及び国際会議等における研究発表、特別講演、基調講演等は、①会議名、②主催者名、③演題、④期日、⑤会場を記入してください。
- 特許がある場合は、名称、登録番号あるいは出願・公開・公告番号、公開(出願)年月日、発明者全員の氏名(それぞれの貢献度%を記入)を記してください。
- 実用新案権がある場合は、①登録番号、②考案の名称、③登録(出願)日、④実用新案技術評価書の有無を記してください。

### 受賞歴

- 新しいものから順に書いてください。
- ①受賞年、②賞の名称、③授与団体、④受賞題目を記入してください。

## 活動歴等および受賞歴

### 活動歴及び今後の活動予定 (文化・芸術部門)

### 活動内容・業績、記録等のリスト (スポーツ部門)

- 新しいものから順に書いてください。
- 今後の活動予定は、公演・大会等わかっているものがあれば書いてください。

### 受賞歴 (文化・芸術部門、スポーツ部門)

- 新しいものから順に書いてください。
- ①受賞年、②賞の名称、③授与団体、④受賞題目を記入してください。

## 科学研究費助成及び公的財団・民間等による助成のリスト

- 科学研究費助成と、公的財団・民間等の助成は分けてください。
- 科学研究費助成は研究種目ごとに開始年の新しいものから書いてください。
- 枠は必要に応じ、適宜追加してください。

### 科学研究費助成

研究種目	研究課題	研究期間	代表者氏名	配分額 (期間総額)

### 公的財団・民間等による助成

授与者 (財団等)	助成の名称	研究期間	代表者氏名	助成金額 (期間総額)
	研究課題			



